

第1回 外国人支援コーディネーターの活動インタビュー



公益財団法人横浜市国際交流協会 Aさん

ー 横浜市国際交流協会では、どのようなお仕事をされていますか。

Aさん：横浜市国際交流協会は、横浜市内にある13か所の国際交流ラウンジ（横浜市が、市内在住の外国人のために、多言語による生活相談・情報発信等の拠点として設置するラウンジ）と連携し、横浜市内で外国人等に対する多言語による情報提供や相談対応、交流事業、日本語教育、子ども・若者支援、外国人と地域のつながりづくり等を行っています。私は管理職として、事業全体の統括をしています。

ー 外国人支援の仕事をするようになったきっかけは何ですか。

Aさん：私はもともと中国にルーツがあり、横浜市で外国から来ている子どものボランティアの学習支援活動をしていました。そして、支援活動をきっかけに、横浜市の外国人支援・多文化共生の活動を知り中国語の相談員として働くようになりました。

ー 相談員をされていて良かったことはありますか。

Aさん：相談者と一緒に課題を整理しながら解決に導いた時、相談者から、「将来はあなたのようにになりたい。私も日本との架け橋になるような仕事がしたい。」と言われたことが嬉しかったです。

ー 外国人支援コーディネーター養成研修を受講しようと思ったきっかけは何ですか。

Aさん：相談員になるためには、まずは外国語ができることが前提になりますが、相談対応に必要な知識については、相談員になってから自分で調べたり、勉強会に参加したりして身につけることが多いのが現状です。ただ、様々な相談内容を自力で整理するのは非常に大変で、文化や価値観の違いによって、うまく話が伝わらないこともあります。そうした課題に向き合う中で、まずは管理職としての知識と視点を持つ必要があると感じました。外国人支援コーディネーター養成研修については、その検討段階から入管庁のHP上の情報で知っており、以前から強い関心を持っていました。昨年、研修が正式に始まると聞いたときには、迷うことなく受講することを決めました。

ー 外国人支援コーディネーター養成研修を受講して学びはありましたか。

Aさん：「相談記録を書く意義と書き方」について学んだことは、私にとって大きな学びでした。なぜ記録が必要なのか、どのような視点で書くべきかといった点は、外国人支援において非常に重要だと感じています。直に外国人の声を聴ける大事な現場なので、困りごとを解決することにとどまらず、予防的な施策につなげられるようなヒントも意識的に拾う姿勢で臨むことなど、この学びを、当協会や国際交流ラウンジの職員にも共有し、その重要性を伝えていきたいと考えています。

ー 外国人支援コーディネーターとして、今後、取り組みたいことはありますか。

Aさん：私たちの仕事には、専門的な知識と高い相談スキルが欠かせません。だからこそ、できるだけ多くの職員に、外国人支援コーディネーター養成研修を受けてもらえるように働きかけていきたいと考えています。私は、対人支援の方法や心の持ち方の講義に関心がありましたが、研修の講義内容は非常に幅広く、どの分野も学びが深いものでした。それぞれが興味を持ったテーマをさらに掘り下げて学び、自身の抱える課題の解決につなげていってほしいと思っています。また、私は依頼を受けて他の地方公共団体等で支援に関する講演を行うこともあるため、この研修で得た知識を活かし、講演の内容を更に充実させていきたいと考えています。

ー 最後に何か伝えたいことはありますか。

Aさん：相談員の仕事は、まだまだ認知度が低いですが、携わるスタッフが研修などを通して対応力向上を図ることで、この領域全体の信頼度につながると信じています。外国人支援コーディネーターの制度ができたことで、より多くの方々が、私たちの仕事に関心を持てただけだと嬉しいです。

御協力ありがとうございました！